

定期作況報告

(第4号 平成21年8月20日現在)

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温は平年より2.3 低く、最低気温も平年より0.3 低かった。降水量は平年より30.7mm 多く、平年対比 143%であった。降水日数は平年より4日多かった。日照時間は平年より26.6時間少なく、平年対比 47%であった。夏日(最高気温25 以上)は4日あり、うち真夏日(最高気温30 以上)はなかった。

8月上旬：最高気温は平年より1.1 高く、最低気温は平年より0.5 低かった。降水量は平年より37.3mm 少なく、平年対比 17%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より32.5時間多く、平年対比 166%であった。夏日は8日あり、うち真夏日は3日あった。

8月中旬：最高気温は平年より1.5 低く、最低気温は平年より0.8 高かった。降水量は平年より13.3mm 多く、平年対比 134%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より21.9時間少なく、平年対比 62%であった。夏日は5日あり、うち真夏日は1日あった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	24.3	26.6	2.3	28.4	27.3	1.1	25.4	26.9	1.5	26.0	26.9	0.9
最低気温()	16.3	16.6	0.3	17.6	18.1	0.5	17.4	16.6	0.8	17.1	17.1	0.0
平均気温()	19.7	21.2	1.5	22.3	22.4	0.1	20.7	21.3	0.6	20.9	21.6	0.7
降水量(mm)	102.5	71.8	30.7	7.5	44.8	37.3	52.0	38.7	13.3	162.0	155.3	6.7
降水日数(日)	9	5	4	1	4	3	5	3	2	15	12	3
日照時間(hr)	23.5	50.1	26.6	81.4	48.9	32.5	35.2	57.1	21.9	140.1	156.1	16.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲 : 不良

事 由：止葉期は平年に比べ「ほしのゆめ」「ななつぼし」で5日、「きらら397」は8日遅かった。出穂期は平年より7日遅かった。穂揃い日数は平年並であった。最終止葉葉数は「ななつぼし」が平年より0.2枚少なかったが、他はほぼ平年並であった。

稈長は平年より2～3cm程度長かった。穂長は16cm前後で平年より0.5～0.7cm短かった。㎡当たり穂数は「きらら397」が平年よりわずかに多かったものの、他はやや少なかった。

以上、先月と同様に生育進度が遅れて経過しており、穂長および㎡当たり穂数は一部を除き平年値に達していない。さらに、冷害危険期に低温に遭遇しており稔実歩合の低下が予想されるため、稔実粒数は平年より少なくなるものと考えられる。よって、目下の作況は「不良」である。

表2 生育期節

品 種	止葉期(月・日)			出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	7.16	7.11	5	7.30	7.23	7	7	7	0
きらら397 成苗	7.21	7.13	8	8. 1	7.25	7	6	6	0
ななつぼし 成苗	7.16	7.11	5	7.31	7.24	7	7	7	0

- 注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。
- 2) 印は平年に比べて「遅」(止葉期、穂期)を示す。
- 3) 印は平年に比べて「短」(穂揃い日数)を示す。

表3 8月20日現在の本田生育

品 種 苗	最終止葉葉数(枚)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ 成苗	10.3	10.2	0.1	68.6	65.5	3.1	15.6	16.1	0.5	711	755	44	94
きらら397 成苗	11.2	11.2	0.0	65.5	62.8	2.7	16.4	16.9	0.5	726	714	12	102
ななつぼし 成苗	10.4	10.6	0.2	70.1	68.4	1.7	16.4	17.1	0.7	647	678	31	95

- 注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。
- 2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦： 不良

事由： 成熟期は平年より1日早かった。穂数は平年並で穂長は平年より短く、千粒重は平年より重かった。登熟後期（7月上中旬）の日照不足により子実への転流が劣ったことから、リットル重は平年よりやや軽かった。この結果、子実重は平年比78%と低収となった。

したがって、目下の作況は不良である。

表4 秋まき小麦の収量

品種名	成熟期（月日）			穂数（本/m ² ）			穂長（cm）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	7.16	7.17	1	682	681	1	7.6	8.7	1.1

品種名	子実重(kg/10a)			子実重平年比（%）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	529	679	150	78	100	22

品種名	千粒重（g）			リットル重（g）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	41.8	38.9	2.9	766	785	19

注1) 平年値は、前7か年中、平成14年、18年（収穫年度）を除く5か年の平均値

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

3) 春まき小麦： 平年並

事由： 7月下旬は低温に経過したため、成熟期は平年より5日遅かった。稈長、穂長はほぼ平年並だが、穂数は平年より多い（前報）。7月下旬の降雨により全面的に倒伏したため、品質の低下が懸念される。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 8月20日の春まき小麦の生育

品種名	成熟期（月日）		
	本年	平年	比較
春よ恋	8.1	7.27	5

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、18年を除く5か年の平均値。

4) 大豆 : 平年並

事由：前旬に続き7月下旬も低温に経過したが、生育は徒長し、7月下旬の降雨で一部倒伏した。8月上旬は天候が回復し、遅れていた生育は回復傾向にある。主茎長は平年より長く、主茎節数が平年よりやや多い。分枝数、着莢数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 8月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	77.6	63.5	14.1	11.2	10.6	0.6	6.8	6.6	0.2

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	91	86	5

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

5) 小 豆 : 平年並

事由：前旬に引き続き7月下旬も低温に経過し、開花期は平年より2~4日遅かった。7月下旬の降雨で一部倒伏した。8月上旬は天候が回復し、土壌水分も十分であったことから、生育は徒長し、主茎長は平年より長い。本葉数、分枝数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 8月20日の小豆の生育

品 種 名	開花期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	7.25	7.21	4
しゅまり	7.24	7.22	2

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	73.7	56.3	17.4	12.1	12.3	0.2	4.2	4.8	0.6
しゅまり	81.6	61.7	19.9	11.9	11.9	0.0	5.6	5.6	0.0

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや良

事由： 8月上旬に天候が回復したため枯凋が進み、多くの株の茎葉が黄変、褐変し、倒伏もみられる。株当たり上いも数は平年よりやや多く、上いも平均一個重は平年よりやや重く、10 a 当たり上いも収量は平年よりやや多い。でんぷん価は平年並みである。

したがって、目下の作況はやや良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	11.8	11.2	0.6	111	103	8	5425	5061	364

品種名	でんぷん価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	14.9	14.8	0.1

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、19年を除く5か年の平均値。

2) 各数値は、試し掘りの値である。